

2025 年度 学校法人 三幸学園 東京医療秘書歯科衛生&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 松林 香里

学校関係者評価委員会委員長 : 小室 奈緒

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

○教務

昨年度の退学率 6.6%に対し、今年度の退学率は 4.8%（2025 年度目標 6.2%）と低減した。本学には通信制高校出身の在学生も多く在籍しており、受講環境の整備に向けた取り組みが結果につながったと考えられる。受講環境としては、ハイフレックス（対面受講とオンライン受講の両者を選ぶ方法）の導入により、登校のハードルを下げることで学びの機会を増やすことにつながった。一方で、「社会人育成の場」と位置付ける本校の教育基盤としては、学ぶ意欲や社会に出る前の人間力育成についても、取り組む必要がある。そのためには、関係企業・団体の協力を得て、社会に繋がる学びの提供をすることで、学生に学ぶ意義を考える機会を提供する必要がある。

○就職

就職率は 100%（2025 年度目標 100%）の結果となった。就職率という数字としては毎年 100%であることから、質の強化という次の段階に入る。本校が強化したい点は、業界内への就職や実就職率の向上である。こうした質の強化を求めるには、個別最適化が必要不可欠であり、入学年度からのキャリア教育が重要と考える。

○広報

2025 年度 4 月入学者が 169 名に対し、2026 年度 4 月入学者は 198 名と大幅増となった。この要因の一つとして、留学生学科（国際ビジネス科）の設置に伴う入学者増も起因している。医療業界・IT 業界の未来を支える人材の育成という使命を持つ本校では、留学生以外の入学者の増加に注力し、多くの卒業生を輩出することが必要である。業界企業・団体の広報活動への協力も得て、入学希望者への魅力付けを今後強化する。

② 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員（医療秘書科）

オンライン授業や対面授業などの学習方法による、社会での適応に関しては因果関係がないようである。現場を鑑みると、個人の特性が多く、現代の社会情勢に合わせて精神的苦痛からの逃げ道があることは必要ではないか。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

保護者向けの情報発信ツールを導入しているが、学校からの一方的な発信が主であり、コミュニケーション量としては改善の余地がある。また、学校として在学生にどうなってほしいかを伝える機会を増やすことで、協力体制を強化し、学生の成長角度を最大化させることができると考える。

③ 今後の改善方策

現在の保護者への情報発信ツールが最適な手段なのかを再検討するとともに、保護者の意向を得る機会が必要である。

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員（診療情報管理士科）

18歳で成人となった今、保護者との連携強化をする必要があるのか。

小室委員（全学科）

高校でも保護者との連携は強化しており、専門学校に進学して急激に保護者と学校の連携がなくなること、保護者が不安を覚えるのではないかと。

大塚委員（医療秘書科）

企業でも、保護者には書面や電話で連絡を取る機会がある。意思決定に保護者の関与は実際に必要である。

松本委員（医療保育科）

学生によって家庭環境が異なり、親子でコミュニケーションが取れていない場合は保護者が心配になると感じる。

(2) 学校運営

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

2024 年度から開始された新人事制度に応じて、面談や会議を通じてメンバーへの浸透を 1 年間行なった。大きな課題は見られないが、より効果的な活用を検討する余地がある。

② 今後の改善方策

対象者との面談にて改めて人事制度の説明を行うことで理解を深め、評価者については評価力育成会議に出席し公正な評価ができるように 2026 年度も継続して行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員（医療秘書科）

本校の教職員について、教職員同士で連携が取れていることが良い点である。

(3) 教育活動

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・ 毎年教育課程の編成を実施しているが、最前線の現場で必要な力を得られるような授業展開が一部の科目でしかできていない。
- ・ 2024年度新規設立学科である歯科衛生士科は、外部の評価を取り入れる機会がなかった。
- ・ 美容医療業界を就職先として志望する学生が増加しているが実習、見学の機会が些少である。

② 今後の改善方策

- ・ 実習訪問の際、実習担当者や卒業生から現場で必要な力についてヒアリングを行い、実際の現場で活躍できるようカリキュラムを検討する。また、実習後の学生にインタビューし授業内容と現場でのギャップについて把握する。
- ・ 卒業生が在籍するクリニックへのアプローチを実施し、実習、見学などから連携を依頼する。また、講師の人脈を活用し紹介頂ける体制を整備する。
- ・ 現場と本校を兼職している外部講師が多いため、意見を取り入れカリキュラムの改定を検討する。

③ 特記事項

2025 年 2 月に学科行事にて、各学科と各業界団体が連携した実習や研究発表を合同で実施した。各団体との連携は業界を深く知る機会であり、キャリア教育に寄与できる良い機会である。また、授業や学びの 1 年の集大成として位置付けているため、各業界団体との連携を広げていき、今後も継続的に実施していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員（診療情報管理士科）

診療情報管理士科の卒業生において、技能的な部分は授業で学んでいるため、現場で戦力となっている。

(4) 学修成果

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

卒業生・在校生の活躍の発信や評価をする場面はやや不足している。卒業生との連絡体制が十分に構築されておらず、現在の教務への還元が少なくなっていることに起因する。

② 今後の改善方策

- ・ クラスに準ずる1人の担任教員による指導だけでなく、学科全体教員で構成されるチーム担任制度を導入・活用することで、卒業生・在校生との連携を強化する。
- ・ 卒業生との関わりを増加させるために、同窓会システム（SANKO LINK・同窓会 LINE）にて情報発信を行う。
- ・ 授業に卒業生を招くことで、在学生の就学意欲向上や卒業生の社会的な活躍認識を強化する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員（診療情報管理士科）

卒業後の調査について、他の大学や専門学校からアンケートが届く例はあまりなく、実際に卒業後の情報を得ることは困難に等しい。療情報管理士学会では、学会員等にアンケートを実施している。

松本委員（医療保育科）

同じ就職先の卒業生と会う機会はあるが、学校とのつながりはどうしても薄くなってしまふ。

(5) 学生支援

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・ 卒業生への支援の内容・方策の検討と SANKO LINK 及び同窓会 LINE の活用
- ・ 卒業生支援ツール（SANKO LINK）については、卒業前に告知しており、医療機関より卒業生の採用（中途採用）を随時発信している。
- ・ 同窓会 LINE は直近の卒業生のための登録であり、お知らせや依頼が主となっており、卒業生にとって有益な情報を発信することができていない。
- ・ 中途退学者への支援制度が十分に整備されておらず、連絡手段の困難や目標喪失による退学が多く、支援に困難を感じている。
- ・ 高校生のうちに仕事に触れる機会が少なく、職業教育としては至らない部分があった。

② 改善方策

- ・ SANKO LINK に関しては、変わらず卒業生求人の発信を続けるとともに、同窓会 LINE の登録を促す。
- ・ 同窓会 LINE の運用対象を直近の卒業生のみではなく、それ以前の卒業生に対しても行うことで、個別にやりとりできる機会を増やし、在籍時と変わらない就職支援をできるようにする。また、同窓会 LINE へも卒業生求人を発信することで支援につなげる。
- ・ 中途退学者に関しては、再進学や就職を考えた時に支援ができるような問い合わせ先を紹介しておく（HP お問い合わせフォームや電話など）。
- ・ オープンキャンパスで卒業生や関連企業・団体の協力を得ることで、職業理解を促進させる。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員（診療情報管理士科）

目標が明確である学生が退学する可能性は低いと考えられる。目標に近い先輩との交流ができる
と良いのではないかな。

松本委員（医療保育科）

現場の先生から話を聞く機会はあったが、卒業生から話を聞く機会はなかった。卒業生から話を
きける機会があると良い。

小室委員（全学科）

高校でも一度勉強についていけないと、何か理由をつけて退学になることが多い。

（６）教育環境

【評価項目】（評価＝適切：４、ほぼ適切：３、やや不適切：２、不適切：１）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	３
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	４
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	４

① 課題

ハイフレックス授業の導入により、オンラインに関する設備としてノートパソコンを購入した。
また、各教室で実施できるようパソコン設置台や延長コードなどの周辺機器も整備した。しかし、
多数の通信機器の使用を要因として動作が遅い、または停止してしまう事象が発生し、安定した授
業運営に影響を及ぼす場面が見られた。

② 今後の改善方策

情報システム部と連携し、通信環境の調査ならびに機器の修理を実施したが、未だに機器の動作
遅延が確認されるため機器の入れ替えを検討する。

③ 特記事項

防災および安全管理の意識の向上を目的として、初回ホームルーム時に避難訓練を全クラスで実
施した。

また、訓練と併せて、避難経路、緊急避難場所を周知を行った。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

2025 年度は、オープンキャンパスを毎月開催し、高校生との接点拡大に努めた。その結果、再編成した医療事務&くすり総合科の募集実績が向上した。また、6 月より本格的な募集活動を開始した国際ビジネス科についても、外部進学ガイダンスや留学生支援イベントへの参加したことで、留学生募集が大幅に増加した。

一方で、歯科衛生士科および医療保育科については募集が伸び悩み、歯科衛生士科は定員 40 名に対して入学者 23 名、医療保育科は定員 20 名に対して入学者 8 名となった。両学科ともに募集定員には到達せず、今後は募集強化に向けた施策の検討が課題である。

② 今後の改善方策

オープンキャンパスにて企業連携や卒業生イベントを増やし、高校生が魅力的に感じる打ち出しを行う。また、保護者同伴での来校促進に努め、納得感のある入学案内を徹底していく。学科が複数ある中で、時期や需要に合わせた動員対策を行っていく。

③ 特記事項

2026 年度をもって医療事務科が廃科のため今年度は募集なし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(8) 財務

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画（2023年度～2027年度）の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第2.0版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

④ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域との連携活動として、近隣の保育園に本校の保育実習室を貸し出すほか、教職員や学生が保育園を訪問し、ハロウィンイベントを開催するなど、連携を深めている。一方で、保育科以外の地域連携に取り組めていない現状がある。

② 今後の改善方策

既存で行っている文京区とのリサイクルや本の回収を推進しつつ、学内で希望者を募り、ボランティア活動の活性化を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員（診療情報管理士科）

情報診療管理士学会では、三幸学園のこども校に保育室での保育を実施する等、連携がある。文京区を中心に地域の方向けのイベントなどを実施できると良い。

(11) 国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

2024年度から留学生募集が大幅に伸びたが、事務的な受け入れ体制については、さらなる整備が必要な状況である。日本語力が覚束ない留学生がいるため学習習熟度に格差が発生している。

② 今後の改善方策

- ・ 三幸グループ内の国際事業部や日本語学校に協力を要請し、適切な対応を行う。
- ・ 日本語の理解が不十分な学生には学習習熟度の担保ができるように授業アシスタントの設置や翻訳システムを導入する。
- ・ 日本語力向上のためにカリキュラム外で日本語の補講を行い、日本語力向上を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

大塚委員（医療秘書科）

医療業界では日本人患者が多く、日本語能力の必要性は高い。対面業務だけでなく、事務等の業務も視野に入れるなど、受け入れ側の体制強化も必要である。

松本委員（医療系全学科）

国際診療科という科で留学生が活躍している。部署によってはやはり日本語の診断書を作れるレベルでないと業務遂行は難しい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校の自己評価および学校関係者評価の結果から、教育理念・運営体制・教育活動・学修成果・学生支援・法令遵守・財務など、多くの評価項目において概ね「適切(4)」もしくは「ほぼ適切(3)」の評価を得ており、学校運営は全体として安定的かつ適正に行われていると評価できる。特に、就職率100%の維持、退学率の低減(6.6%→4.8%)、教育課程やキャリア教育の充実、業界との連携強化といった成果は顕著であり、本校の教育目標に基づく人材育成は着実に進んでいる。また、学生募集においても入学者数の増加など一定の成果が見られ、学校の社会的役割を果たしているといえる。

一方で、いくつかの課題も明らかとなった。主な課題としては、以下7点が挙げられる。

1. 保護者や卒業生との双方向的な連携の不足
2. 外部評価の活用や卒業生のキャリア把握の不十分さ
3. 一部教育内容における実務との乖離
4. 卒業生支援や中途退学者への支援体制の強化
5. ICT環境や設備面の改善
6. 学科ごとの募集状況のばらつき
7. 地域連携や社会貢献活動のさらなる拡充

今後は、これらの課題に対し、卒業生ネットワークの活用、産学連携の深化、教育内容の実践性向上、支援体制の拡充、設備環境の改善、広報戦略の強化を計画的に進めることで、より質の高い教育と学生満足度の向上を実現することが求められる。

以上より、本校は概ね良好な運営状況にありつつも、次の成長段階として「質の向上」と「関係性の強化」を軸とした改善を継続することで、社会により高く貢献できる教育機関としての発展が期待される。